

平成30年度学校評価 集計の結果と来年度への取り組み

たむら支援学校

今年度の学校評価アンケートの結果がまとまりました。保護者及び学校評議員の皆様には、お忙しい中ご協力をいただき誠にありがとうございました。

今回の結果を受け課題となる項目については、担当部署で改善に向けて具体的な方策を検討し、次年度の計画と実践に生かして参ります。

【評価基準】	【回答者数】		
A とてもよくできている、とてもよくあてはまる	(小学部) 保護者27人	教 員23人	
B よくできている、よくあてはまる	(中学部) 保護者 9人	教 員 9人	
C あまりできていない、あまりあてはまらない	(高等部) 保護者15人	教 員15人	
D できていない、あてはまらない	《評議員 5人》	《保護者 51人》	《教 員47人》
			《合 計103人》

取り組みの柱(1) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させます。

①個別の指導計画や各教科の指導計画を工夫し、「児童生徒の良さが生かされる配慮点」を明確にして指導の充実を図ります。

質問1 学校は個別の指導計画や各教科の指導計画を工夫しながら作成し、それを分かりやすく懇談等で伝えていましたか？

質問1		A	B	C	D
学校全体	保護者	38	11	2	0
	評価割合	75%	21%	4%	0%
	教員	15	32	0	0
	評価割合	32%	68%	0%	0%
学校評議員 (5人)		5	0	0	0
		100%	0%	0%	0%

質問2 学校は「児童生徒の良さが生かされる指導」をしていましたか？

質問2		A	B	C	D
学校全体	保護者	38	13	0	0
	評価割合	75%	25%	0%	0%
	教員	21	26	0	0
	評価割合	45%	55%	0%	0%
学校評議員 (5人)		5	0	0	0
		100%	0%	0%	0%

②「ことば」に対する関心や理解を深め、「ことばの力」を育成するために必要な環境を整えます。

質問3 学校は児童生徒が自分の思いや気持ちを伝えたり相手から受け取ったりすること(「ことばの力」)に対する関心や理解を深める場面や学習を工夫し、必要な環境を整えていますか？

質問3		A	B	C	D
学校全体	保護者	26	24	1	0
	評価割合	51%	47%	2%	0%
	教員	14	33	0	0
	評価割合	30%	70%	0%	0%
学校評議員 (5人)		5	0	0	0
		100%	0%	0%	0%

③指導の充実を図るため、教員同士が学び合う研修を実施し、教員の専門性の向上に努めます。

質問4 学校は児童生徒が「できる」「わかる」「いきる」授業づくりのために、教員同士が学び合う研修を実施していますか？

質問4		A	B	C	D
学校	保護者	25	25	0	1
	評価割合	49%	49%	0	2%
全体	教員	18	27	2	0
	評価割合	38%	58%	4%	0
学校評議員（5人）		4	1	0	0
		80%	20%	%	%

取り組みの柱(1)

【分析】

全ての項目において「A」または「B」評価となっており、概ね良好な評価といえます。しかし質問1・3については、教員の「C」「D」の評価が0%である一方、保護者からは2~4%の「C」評価が見られることから、その実施内容について保護者へのていねいな説明が必要であると考えられます。また質問4については、保護者の「D」評価が2%、教員の「C」評価が4%であることを踏まえ、教員の研修が授業づくりにどのように反映されているか検討するとともに、その取り組みの様子をていねいに説明する必要があると考えます。

【今後の取り組み】

- ・ 個別の指導計画の作成と内容について、個別懇談だけではなく普段の保護者との連絡や、やりとりの機会を活用し、ていねいに分かりやすく伝えるようにします。
- ・ 「ことばの力」の育成について、個別や小集団の指導場面と各教科等における指導場面を相互に関連させながら、コミュニケーション能力を高める取り組みを進めていきます。また、掲示物や教材等を提示する際には、教師がことばを添えて説明をしたり、ふりがなをつけたりすることで、言語環境を整えられるようにします。
- ・ 今年度小・中・高等部で積極的に授業を公開し、実施後の考察会を行いながら、研修を深めてきました。今後も継続して取り組み、そこで得られた課題や授業改善に向けたアイデアを共有し、授業づくりに生かすことにつなげます。
- ・ 保護者には分かりにくい質問項目や内容については改善します。

取り組みの柱(2) 心身共に健康で将来の夢の実現を促す教育を推進します。

④「児童生徒の良さを生かした」好ましい人間関係を育成し、社会的な資質の向上を図ることができるような道徳教育を推進します。

質問5 学校は「児童生徒の良さを生かした」児童生徒同士また教師とのかかわり合いをより良いものにしていましたか？

質問5		A	B	C	D
学校 全体	保護者	34	17	0	0
	評価割合	67%	33%	0%	0%
	教員	22	25	0	0
	評価割合	47%	53%	0%	0
学校評議員(5人)		5	0	0	0
		100%	0%	0%	0%

質問6 学校は児童生徒が社会の一員として参加したり活動したりできるようにするための取り組みをしていましたか？

質問6		A	B	C	D
学校 全体	保護者	38	13	0	0
	評価割合	75%	25%	0%	0%
	教員	19	27	1	0
	評価割合	40%	58%	2%	0
学校評議員(5人)		5	0	0	0
		100%	0%	0%	0%

⑤児童生徒の健全な成長を促すため、安心・安全な環境を整えとともに生徒指導の充実を図ります。

質問7 学校は豊かでたくましい心と健やかな身体を育てるために、安心・安全な環境を整え生徒指導の充実を図っていますか？

質問7		A	B	C	D
学校 全体	保護者	34	16	1	0
	評価割合	67%	31%	2%	0%
	教員	24	23	0	0
	評価割合	51%	49%	0%	0
学校評議員(5人)		5	0	0	0
		100%	0%	0%	0%

⑥地域の中で役割を果たしながら主体的に生きる力を身に付けることができるよう、自立と社会参加に向けた職業教育の充実を図ります。

質問8 学校は児童生徒が自分の得意なことを生かして、積極的に活動ができる力を身につけるような指導をしていますか？

質問8		A	B	C	D
学校 全体	保護者	35	16	0	0
	評価割合	69%	31%	0%	0%
	教員	16	31	0	0
	評価割合	34%	66%	0%	0%
学校評議員(5人)		5	0	0	0
		100%	0%	0%	0%

質問 9 学校は児童生徒の自立と社会参加に向け、働くことの大切さや働くために必要な力について、児童生徒が知ったり理解したりする学習を行っていますか？

質問 9		A	B	C	D
学校 全体	保護者	31	19	0	1
	評価割合	61%	37%	0	2%
	教員	16	29	2	0
	評価割合	34%	62%	4%	0%
学校評議員 (5 人)		5	0	0	0
		100%	0%	0%	0%

取り組みの柱(2)

【分析】

全ての項目において「A」または「B」評価と高い評価を得ています。

質問 9 のキャリア教育の推進については、保護者と教員で「A」と「B」の回答の割合が逆の結果がでています。児童生徒の将来像として、保護者が期待する姿と、教師が学習の中で身に付けさせたいと思うこととの共通理解が必要と考えます。

【今後の取り組み】

- 本年度、交流及び共同学習の機会を積極的に設けました。次年度は学校近隣だけでなく、児童生徒の居住地域全体に本校の良さを伝えられるような取り組みを工夫していきます。
- 学校保健計画の見直し等を行いながら、食育、運動習慣に関する指導等、家庭との連携を図りながら取り組んでいきます。
- 高等部では「生徒心得」の学校生活のルールを策定しました。生徒、教員、保護者が内容について共有しながら、実年齢に合わせた一貫した指導を行い、社会人としての相応しい行動や言動を育成します。
- 危険箇所の有無を確認し、一覧を作成して全職員で情報を共有しています。今後も児童生徒が安心して安全な学校生活を送れるよう定期的に点検や見直しを行い、情報の共有を密にしていきます。
高等部においても、次年度、交通安全教室を実施し、生徒が安全に登下校できるように支援します
- 小学部から中学部、そして高等部への発達の段階や実年齢、環境の変化に応じ早期からキャリア教育を実践できるようにします。児童生徒の発達に応じたライフキャリア（身近の自立や経験の拡充・豊かに生きること等）とワークキャリア（勤労・就業）双方の充実を図るために、各教科の学習、日常生活の指導や生活単元学習等の学習を充実させます。
- 高等部では次年度も生徒が各種実務検定・技能検定をとおしてスキルアップを図り、一人一人が将来の夢の実現にむけて取り組んでいけるように指導します。

取り組みの柱(3) 保護者や地域と共に歩む学校をつくります。

⑦保護者や関係機関と連携し、「児童生徒の良さ」を明確にした「個別の教育支援計画」を作成し、活用を図ります。

質問 10 学校は（保護者や関係機関と連携し、「児童生徒の良さ」を明確にした「個別の教育支援計画」を作成しその内容やこれからの活用方法について分かりやすく説明をしていますか？

質問 10		A	B	C	D
学校	保護者	36	13	2	0
	評価割合	71%	25%	4%	0%
学校全体	教員	13	32	2	0
	評価割合	28%	68%	4%	0
学校評議員（5人）		5	0	0	0
		100%	0%	0%	0%

⑧地域の特別支援教育を支援し、地域と学校が一体となって児童生徒を育成します。

質問 11 学校は地域の特別支援教育について理解を広めたり、相談や支援を行っていますか？

質問 11		A	B	C	D
学校	保護者	26	23	1	1
	評価割合	51%	45%	2%	2%
学校全体	教員	24	23	0	0
	評価割合	51%	49%	0%	0%
学校評議員（5人）		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

質問 12 学校は地域と一体となって児童生徒を育てていますか？

質問 12		A	B	C	D
学校	保護者	29	20	1	1
	評価割合	57%	39%	2%	2%
学校全体	教員	19	28	0	0
	評価割合	40%	60%	0%	0%
学校評議員（5人）		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

⑨「地域で共に学び共に生きる教育」を推進します

質問 13 学校は「地域で共に学び共に生きる教育」を推進していますか？

質問 13		A	B	C	D
学校	保護者	30	20	1	0
	評価割合	60%	39%	1%	0%
学校全体	教員	21	24	2	0
	評価割合	45%	51%	4%	0%
学校評議員（5人）		5	0	0	0
		100%	0%	0%	0%

取り組みの柱(3)

【分析】

全ての項目において「A」または「B」の高い評価を得ています。

質問10については、個別の教育支援計画について、保護者とともに、教員にも「C」評価が4%ずつあることを踏まえ、個別の教育支援計画の考え方を教員間で再確認するとともに、それをていねいに保護者へ説明していく必要があると考えます。

質問11～13については「地域」の捉え方に課題があると予想されます。学校のある田村市と児童生徒の居住地との関連を考えた対応を検討する必要があると考えます。

【今後の取り組み】

- ・ C評価のあった、個別の教育支援計画について、個別懇談だけではなく普段の保護者との連絡や、やりとりの機会を活用し、ていねいに分かりやすく伝え共に歩む学校づくりを目指してまいります。今年度サポートブックの確認や活用方法の説明を教育支援部が中心に行いました。次年度以降、サポートブックを実際に活用しながら、個別の教育支援計画に反映させていけるよう工夫してまいります。
- ・ 田村地区（田村市・田村郡）に加え、安達地区（二本松市・本宮市・大玉村）管内への情報発信（作品展示やイベントへの参加等）を行います。
- ・ 平成30年度は本校主催の「特別支援教育セミナー」を開催しました。今後も研修を通して地域の特別支援教育に関わる教員の資質の向上を図るとともに、特別支援教育の充実に貢献することができるよう本校 Web ページ等を活用しながら、広報活動や情報発信を行います。
- ・ 本年度、地域支援センター「ゆめここ」を設置しました。次年度も子どもの教育ニーズに応じた支援が、就学前から学校卒業後まで切れ目なく連携・共有できるようにおてつだいします。

